

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 7 部門第 3 区分
【発行日】平成 17 年 12 月 2 日 (2005.12.2)

【公表番号】特表 2001-523418(P2001-523418A)
【公表日】平成 13 年 11 月 20 日 (2001.11.20)
【出願番号】特願平 10-547209
【国際特許分類第 7 版】
H 0 4 Q 7/22
H 0 4 Q 7/28
【F I】
H 0 4 Q 7/04 K

【手続補正書】
【提出日】平成 17 年 5 月 2 日 (2005.5.2)
【手続補正 1】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】補正の内容のとおり
【補正方法】変更
【補正の内容】

手続補正書

平成17年5月2日



特許庁長官 殿

1. 事件の表示

特願平10-547209号

2. 補正をする者

名称 クゥアルコム・インコーポレイテッド



3. 代理人

東京都千代田区霞が関3丁目7番2号

鈴 榮 特 許 綜 合 事 務 所 内

〒100-0013 電話03(3502)3181 (大代表)

(5 8 4 7) 弁 理 士 鈴 江 武 彦



4. 自発補正

5. 補正により減少する請求項の数 3

6. 補正対象書類名

明細書及び請求の範囲

7. 補正対象項目名

明細書及び請求の範囲

8. 補正の内容

(1) 明細書5頁19-20行の「ラフイックレベルに基づいて前記システム間ソフト・ハンドオフを拒絶し、前記システム間ソフト・ハンドオフを許可する、ための許可(admission)制御サブシステム、を具備する:」を、

「ラフイックレベルに基づいて前記システム間ソフト・ハンドオフを拒絶するか、或いは前記システム間ソフト・ハンドオフを許可する、ための許可(admission)制御サブシステム、を具備する:」と補正する。

(2) 明細書8頁22行の「42」を「40」に補正する。

(3) 明細書 13 頁 4～6 行に記載された「特に、電話サービスの二つの品質レベルを提供する IS-95 標準は、各レベルまたはトラフィックレートの関連セット或いは「レートセット」を有するサービスを提供する。」を、

「特に、IS-95 標準は、電話サービスの二つの品質レベルを提供する、サービスの各レベルはトラフィックレートの関連セット或いは「レートセット」を有する。」と補正する。

(4) 明細書 14 頁 21～27 行の「本発明の好適な実施例において、遠隔システム間ソフト・ハンドオフは、システム間ソフト・ハンドオフの開始の間に実行されるのと同様の形態で実行される。特に、基地局 22C からのパイロットチャネルを表示する加入者ユニット 20 からの強度測定報告を受信することは加入者から報告 (PSMR) を受信した後、セクタ・サブシステム 40 は、許可電話システムにシステム間ソフト・ハンドオフ要求を送信する。しかし、ここでフレーム選択、及びフレーム分布が、遠隔 BSC 24A で実行される。」を、

「本発明の好適な実施例において、遠隔システム間ソフト・ハンドオフは、システム間ソフト・ハンドオフの開始の間に実行されるのと同様の形態で実行される。特に、基地局 22C からのパイロットチャネルを表示する加入者ユニット 20 からの強度測定報告 (PSMR) を受信した後、セクタ・サブシステム 40 は、許可制御システム 44 にシステム間ソフト・ハンドオフ要求を送信する。しかし、ここでフレーム選択、及びフレーム分布が、遠隔 BSC 24A で実行される。」と補正する。

(5) 請求の範囲を別紙のとおり補正する。

請求の範囲

1. a) 第一の基地局制御装置 (2 4 A) と第二の基地局制御装置 (2 4 B) との間の相互接続に沿って交換されるトラフィックレベルをモニターすること、該トラフィックレベルは相互接続 (4 6) 上での平均フレーム受信レート及び第一の基地局制御装置 (2 4 A) と第二の基地局制御装置 (2 4 B) との間のインターフェース (3 2 f) でのピーク待ち行列の長さ、の内の少なくとも 1 つにより表示される；及び

b) 前記トラフィックレベルに基づいてソフト・ハンドオフ要求を許可すること、

を具備する、第一の基地局制御装置 (2 4 A) により制御される第 1 の基地局と、第二の基地局制御装置 (2 4 B) との間で加入者ユニットにより行われる通話のソフト・ハンドオフを実施するための方法。

2. さらに、前記ピーク待ち行列の長さと平均フレーム受信レートとを周期的に送信することを具備する、請求項 1 に記載された方法。

3. 前記ピーク待ち行列の長さ及び前記平均フレーム受信レートは各 2 秒毎に送信される、請求項 2 に記載された方法。

4. 工程 b) が、

b. 1) 待ち行列の長さ閾値と前記ピーク待ち行列長さを比較する、及び

b. 2) 前記ピーク待ち行列の長さが前記待ち行列の長さ閾値未満であるときに、前記ソフト・ハンドオフ要求を許可する、を具備する請求項 1, 2 又は 3 に記載された方法。

5. 工程 b) が、

b. 1) 待ち行列の長さ域値と前記ピーク待ち行列長さを比較する、

b. 2) 平均フレーム受信レート閾値と前記平均フレーム受信レートを比較する、及び

b. 3) 前記ピーク待ち行列の長さが、前記待ち行列の長さ閾値未満であり、及び前記平均フレーム受信レートが前記平均フレーム受信レート閾値未満であるときに、前記ソフト・ハンドオフ要求を許可する、

を具備する請求項 1, 2 又は 3 に記載された方法。

6. 前記第一の基地局制御装置 (2 4 A) と前記第二の基地局制御装置 (2 4 B) は、相互接続容量を有する相互接続 (4 6) により接続され、及び

前記相互接続 (4 6) が MT T-1 接続を具備するときに、前記ピーク待ち行列の長さ閾値は $3 * 168 * MT * .9$ に設定され、前記相互接続 (4 6) が ME E-1 接続を具備するときに、前記ピーク待ち行列の長さ閾値は $3 * 240 * M$

E * .9 に設定される、請求項 1 乃至 5 のいずれかに記載された方法。

7. 前記第一の基地局制御装置 (2 4 A) と前記第二の基地局制御装置 (2 4 B) は相互接続容量を有する相互接続 (4 6) により接続され、及び

前記平均フレーム受信レート閾値は $\lfloor 50 * N * 0.9 \rfloor / 1.05$ であつて、ここで N は、以下のようにどの程度多くの T-1 又は E-1 接続が実質的に前記相互接続を構成しているかに基づいて設定される、請求項 4 又は 5 に記載された方法。

T-1 構造 (M _T)	20ms (N) 当たりの フレーム (N)	E-1 構成 (M _E)	20ms 当たりのフ レーム (N)
単一の T-1	84	単一の E-1	130
2つの T-1	205	2つの E-1	315
3つの T-1	328	3つの E-1	470
4つの T-1	450	4つの E-1	660
5つの T-1	570	5つの E-1	820
6つの T-1	700		
7つの T-1	810		

8. 第一の基地局制御装置 (2 4 A) と第二の基地局制御装置 (2 4 B) との間での相互接続 (4 6) に沿って交換されたトラフィックレベルをモニターするためのセルラーシステム インターフェイスポート (3 2 f)、トラフィックレベルは、(a) 基地局制御装置 (2 4 A) と第二の基地局制御装置 (2 4 B) との間で交換されるトラフィックのピーク待ち行列長さと、(b) 前記セルラーシステム インターフェイスポート (3 2 f) での平均フレーム受信レート、との内の少なくとも 1 つにより示される、

基地局制御装置 (2 4 A) により制御される第一の基地局 (2 2 A) と、第二の基地局制御装置 (2 4 B) により制御される第二の基地局 (2 2 B) との間で通話のソフトハンドオフを開始するためのセレクター (4 0) ; 及び

前記トラフィックレベルに基づいて、前記ソフトハンドオフを許可し、或いは前記システム間ソフトハンドオフを拒絶するための許可制御サブシステム (4 4)、を具備する、

第一の基地局制御装置 (2 4 A) により制御される第一の基地局 (2 2 A) と第二の基地局制御装置 (2 4 B) により制御される第二の基地局 (2 2 B) との間での通話のハンドオフを実行できる基地局制御装置 (2 4 A)。

9. 前記セルラーシステム インターフェイス ポート (3 2 f) は、更に前記ピーク待ち行列長さと前記平均フレーム受信レートとを周期的に送信するよ

うに構成される、

請求項 8 に記載された基地局制御装置 (2 4 A)。

1 0. 前記ピーク待ち行列の長さと前記平均フレーム受信レートが各 2 秒毎に送信される、請求項 9 に記載された基地局制御装置 (2 4 A)。

1 1. 前記許可制御サブシステム (4 4) は、さらに待ち行列の長さの閾値と前記ピーク待ち行列長さを比較するように構成され、及び前記ピーク待ち行列の長さが前記待ち行列の長さの閾値未満であるときに、前記ハンドオフを許可するように構成される、

請求項 8, 9 又は 10 に記載された基地局制御装置。

1 2. 前記許可制御サブシステム (4 4) は、更に待ち行列長さの閾値と前記ピーク待ち行列長さを比較し、平均フレーム受信レート閾値と前記平均フレーム受信レートを比較し、及び前記ピーク待ち行列の長さが前記待ち行列の長さの閾値未満であり、及び前記平均フレーム受信レートが前記平均フレーム受信レート閾値未満であるときに、前記ソフトハンドオフを許可するように構成される、

請求項 8 乃至 11 のいずれかに記載された基地局制御装置 (2 4 A)。

1 3. 前記基地局制御装置 (2 4 A) 及び前記第二の基地局制御装置 (2 4 B) が、相互接続容量を有する相互接続 (4 6) により接続され、及び

前記ピーク待ち行列の長さ閾値は、前記相互接続 (4 6) が MT-1 接続を具備するときには $3 * 168 * MT * .9$ に設定され、前記相互接続 (4 6) が ME-1 接続を具備するときには $3 * 240 * ME * .9$ に設定される、

請求項 8 乃至 12 のいずれかに記載の基地局制御装置 (2 4 A)。

1 4. 前記基地局制御装置 (2 4 A) と前記第二の基地局制御装置 (2 4 B) は、相互接続容量を有する相互接続 (4 6) により接続され、及び

前記平均フレーム受信閾値は、 $\lfloor 50 * N * 0.9 \rfloor / 1.05$ であって、ここで N は、以下のようにどの程度多くの T-1 又は E-1 接続が実質的に前記相互接続 (4 6) を構成しているかに基づいて設定される、

請求項 8 乃至 1 3 のいずれかに記載されたセルラー電話システム、

T-1 構造 (M_T)	2 0 ms (N) 当たり のフレーム (N)	E-1 構成 (M_E)	2 0 ms 当たりのフ レーム (N)
単一の T-1	8 4	単一の E-1	1 3 0
2 つの T-1	2 0 5	2 つの E-1	3 1 5
3 つの T-1	3 2 8	3 つの E-1	4 7 0
4 つの T-1	4 5 0	4 つの E-1	6 6 0

5つのT-1	570	5つのE-1	820
6つのT-1	700		
7つのT-1	810		

。

15. 基地局制御装置(24A)により制御される第一の基地局(22A)と第二の基地局制御装置(24B)により制御される第二の基地局(22B)間でのハンドオフを制御するための基地局制御装置であって、

二つの基地局制御装置間の相互接続(46)に沿ってデータの流れをモニターし(32f, 44)、及びそこから二つの基地局(22A, 22B)間のハンドオフを許可するかしないかを決定するための手段、該データフローは相互接続(46)上での平均フレーム受信レート及び、基地局制御装置(24A)と第二の基地局制御装置(24B)の間のインターフェイス(32f)でのピーク待ち行列長さの内の少なくとも1つにより示される、

を具備する上記基地局制御装置。